

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
（分担）研究報告書

新興感染症の回復者からの血漿の採取体制の構築に向けた研究

研究分担者 室井 一男 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター長

新興感染症の回復者からの血漿採取に当たり、事前検査採血、本検査採血、血漿採取、採取した血漿の保管に関する流れと必要な消耗品を明らかにした。

省略

A. 研究目的

新興感染症の回復者からの血漿採取に当たり、事前検査採血、本検査採血、血漿採取、採取した血漿の保管に関する流れと必要な消耗品を明らかにする。

B. 研究方法

日本赤十字社では、委託事業として、医療施設で患者から採血された自己血の保管・管理を行っている。この委託事業を参考に、上記の目的に合致した流れと必要な消耗品を明らかにする。
（倫理面への配慮）
各種倫理指針に抵触しない。

C. 研究結果

事前検査採血、本検査採血、血漿採取は、医療施設で行われることを前提とした。必要な消耗品は、貼付するラベルであった。検査用採血管に貼付するラベルは、二次元バーコード付きとした。採取された血漿バッグに貼付するラベルは、二次元バーコード付きで、ABO血液型別に色分けされたものとした。採血検体と血漿バッグは、日赤で使われている輸送容器で日赤に配送されることとした。感染症スクリーニング検査、血液型検査、不規則抗体検査、経産婦の抗HLA抗体検査、ALTは、日赤で検査されることとした。採取した血漿は、日赤で保管されることとした。

D. 考察

事前検査採血、本検査採血、血漿採取は、医療施設で対応し、日赤で行う検査は、輸血検査、感染症検査、ALTに特化することによって、無理なく一連の流れが進むと思われる。日赤では、採取した血漿をGMP外の基準で保管することになる。

E. 結論

新興感染症の回復者からの血漿の採取と採取された血漿の保管は、実行可能である。

F. 研究発表

1. 論文発表

Yokohama A, Muroi K 他.
Differences among hemoglobin thresholds for red blood cell transfusions in patients with hematological diseases in teaching hospitals: a real world data in Japan. Int J Hematol. 112(4):535-543, 2020.

Tanaka A, Muroi K 他. Transfusion-associated circulatory overload and high blood pressure: A multicentre retrospective study in Japan. Vox Sang. 2021 Feb 2. Online ahead of print.

2. 学会発表

横濱章彦、室井一男他. 造血器疾患をもつ大量赤血球輸血患者に対する鉄キレート療法の現状. 日本輸血細胞治療学会誌 66(2):370, 2020.

G. 知的財産権の出願・登録状況
なし